



□ 施工前に、この施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。  
尚、この施工説明書と同梱の取扱説明書は、必ずお客様のお渡しください。


## 安全上のご注意

- ここに示した **注意** は、状況によって重大な結果（傷害・損害）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

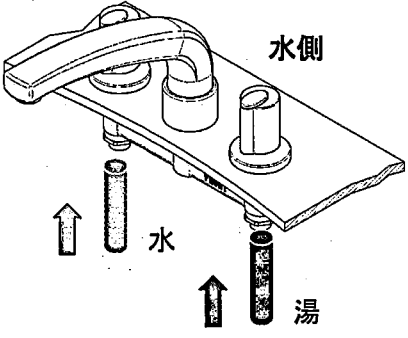
 この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

### 注意


 湯水を逆に配管しないでください。  
禁止 湯側

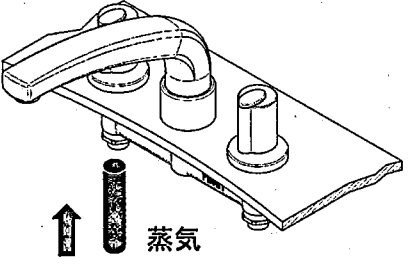
水側



水 ↑ 湯 ↑


水をだそうとしても、湯が出て、やけどをすることがあります。

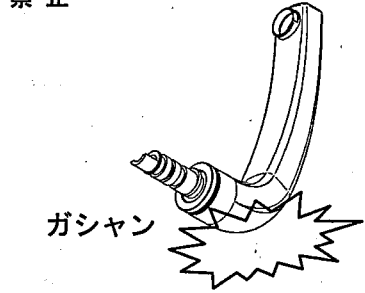
 給湯に蒸気を使用しないでください。  
禁止 湯側



蒸気 ↑


器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

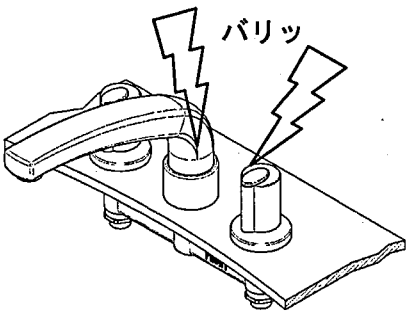
 吐水口の取扱いには充分ご注意ください。  
禁止



ガシャン


落としたり、ぶついたりすると破損の原因になります。

 凍結が予想される際は、水を抜いておいてください。



バリッ


凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

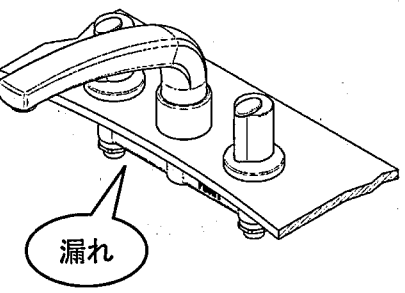
 スチームルーム及び乾燥室にご使用の際は相談ください。



スチーム

器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

 施工完了後は、配管接続部及び器具から水漏れのないことを確認してください。



漏れ

漏水で、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

## 使用条件

① 使用水圧「A = (給湯器の最低作動圧力) + (配管圧力損失)」

(1) 瞬間給湯機との組み合わせ

設定条件 ・水温:25℃ ・給湯機温度調節:高温設定(60℃) ・吐水温度:40℃ ・ハンドル全開-比例制御式-

最低必要圧力	最高水圧
A + 0.08 MPa (0.8 kg f/cm <sup>2</sup> )	0.75 MPa (7.6 kg f/cm <sup>2</sup> )

-能力単独式/能力切替式-

給湯器 号数	最低必要圧力	最高水圧
8号	A + 0.12 MPa (1.2 kg f/cm <sup>2</sup> )	0.75 MPa (7.6 kg f/cm <sup>2</sup> )
10号	A + 0.20 MPa (2.0 kg f/cm <sup>2</sup> )	
12号	A + 0.28 MPa (2.7 kg f/cm <sup>2</sup> )	

能力切替式の湯沸かし器では、能力切替を行なうことにより使用範囲が広がります。

(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ

最低必要圧力	最高水圧
A + 0.05 MPa (0.5 kg f/cm <sup>2</sup> )	0.75 MPa (7.6 kg f/cm <sup>2</sup> )

② ハンドルは、全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。

③ 給水圧力は給湯圧力より高くする(3:1程度)か、同圧になるようにしてください。

④ 給水圧力が0.3 MPa (3.0 kg f/cm<sup>2</sup>)から0.75 MPa (7.6 kg f/cm<sup>2</sup>)までは、止水栓で流量調整してください。

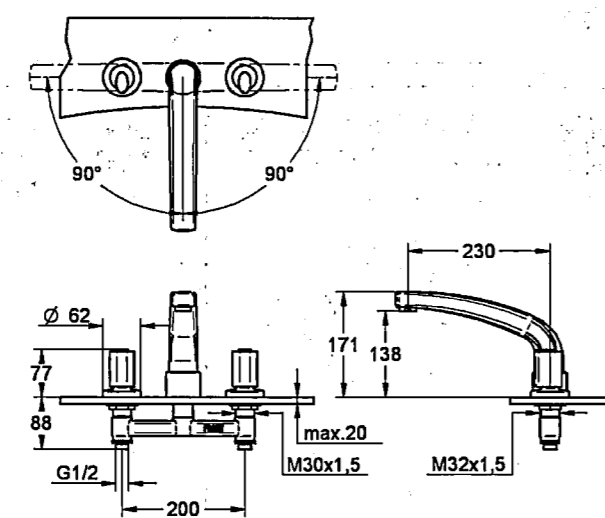
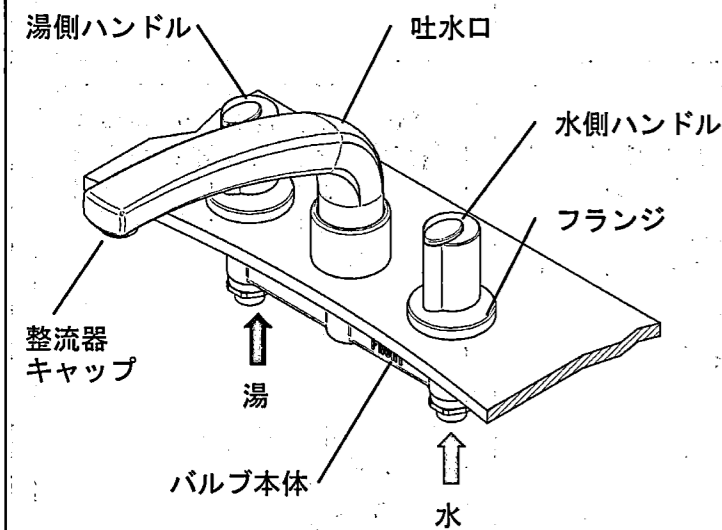
⑤ 給水圧力が0.75 MPa (7.6 kg f/cm<sup>2</sup>)を超えときは、市販の減圧弁で、0.2 MPa (2.0 kg f/cm<sup>2</sup>)程度に減圧してください。

⑥ 給湯器からの配管は最短距離で設備し、配管には保温材を巻いてください。

⑦ 使用諸条件を加味して、適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。

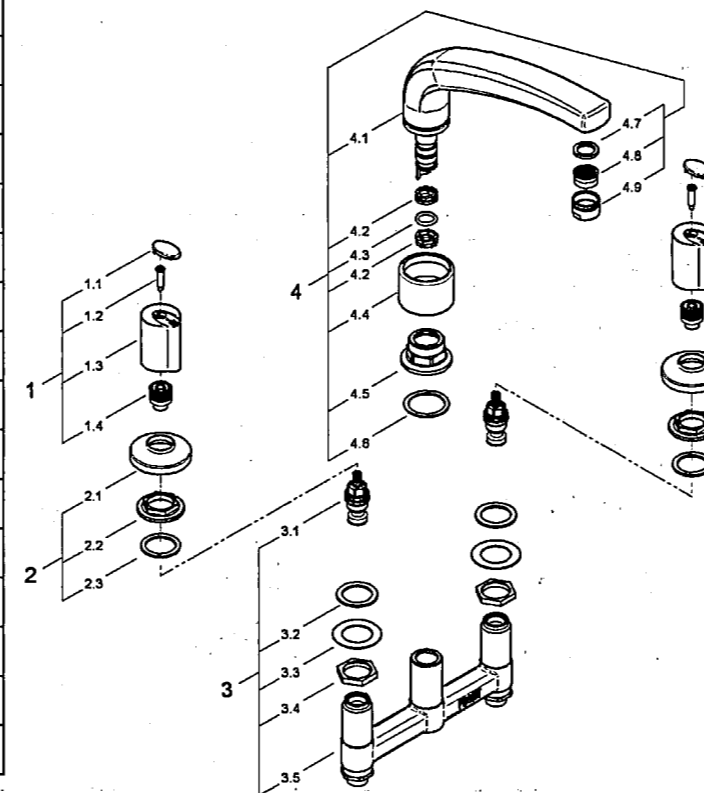
## 名称

## 寸法図



## 分解図

図番	名称
1	開閉ハンドル
1.1	キャップ
1.2	止ビス
1.3	ハンドル
1.4	インサート
2	フランジセット
2.1	フランジ
2.2	固定ナット
2.3	パッキン
3	バルブ本体
3.1	ヘッドパーツ
3.2	パッキン
3.3	ワッシャー
3.4	固定ナット
3.5	本体部



図番	名称
4	吐水口
4.1	吐水本体
4.2	ガイドリング
4.3	Oリング
4.4	化粧リング
4.5	締付ナット
4.6	パッキン
4.7	パッキン
4.8	泡沫器
4.9	泡沫器キャップ

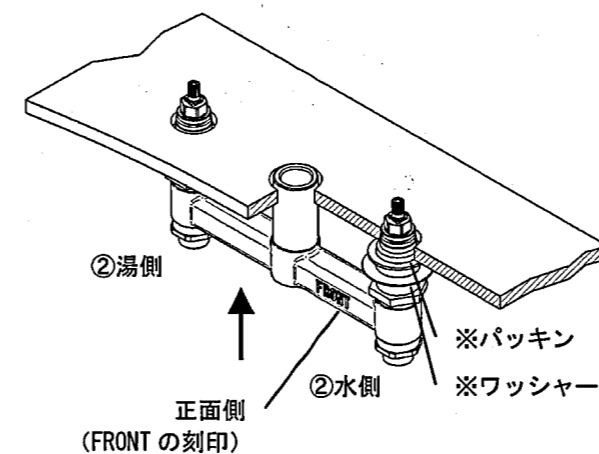
## 取り付け手順

### 1 本体の準備

① 本体上部のプラスチック製カバーを取り外してください。

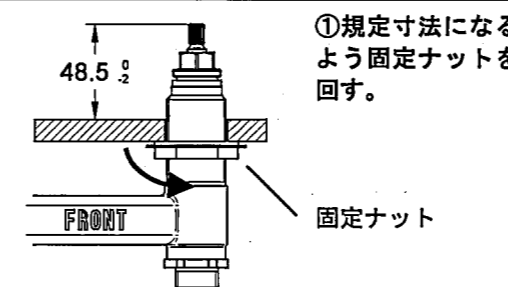
「注意」※パッキン、ワッシャーは取り外さないでください。

② 本体を正面(FRONTの刻印で表示)に向けて、カウンター下部より穴に挿入してください。



### 2 本体の高さ調整

① 規定寸法になるよう、本体の固定ナットを手で回して、位置を調整してください。



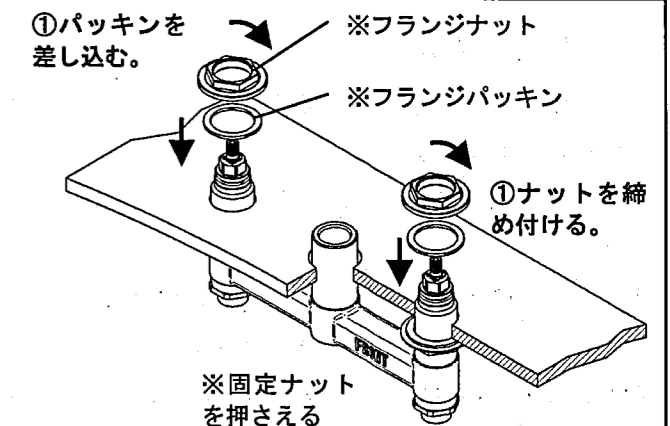
## 取り付け手順

### 3 本体の固定

① フランジパッキンを両側に差し込んでください。

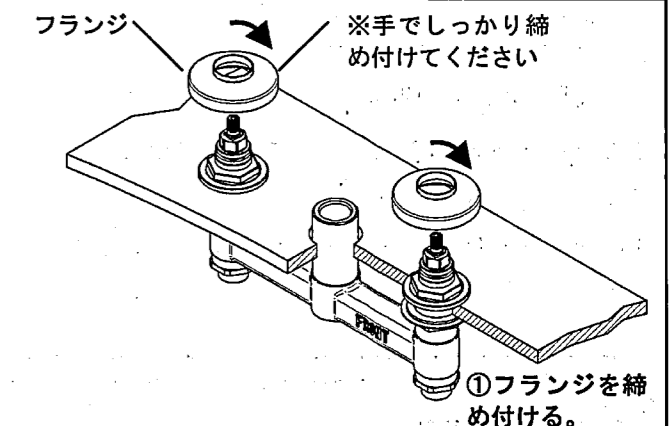
② 固定ナットを工具(3mmスパナ)で押さえながら、フランジナットを両側のネジ部にねじ込み、工具(3mmスパナ)で固定してください。

「注意」※フランジの箱より、パッキンとナットを取り外してください。



### 4 フランジの取り付け

① フランジナットのネジ部に、フランジを手で締め付けてください。

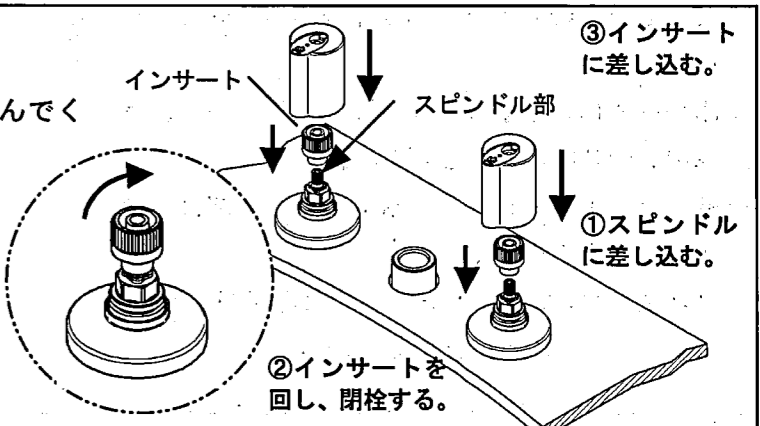


### 5 ハンドルの取り付け

① 両側のスピンドル部に、インサートを差し込んでください。

② インサートを右に回して、閉栓してください。

③ ハンドルの楕円部が正面に向くよう、インサートのギザギザ部に差し込んでください。

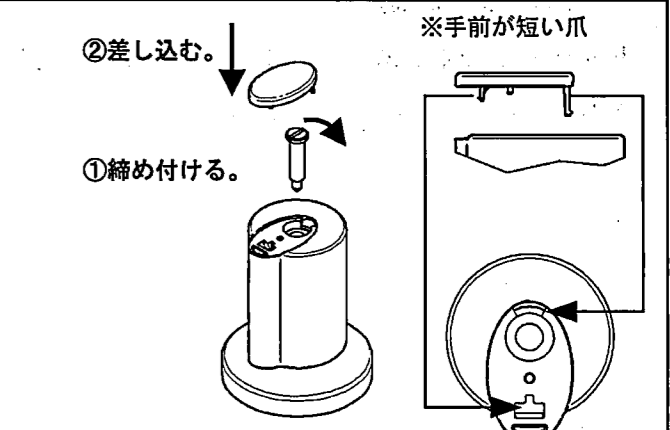


### 6 ハンドルの固定

① ハンドルの止ビスを工具(ドライバー)等で締め付けてください。

② ハンドルの溝とキャップ溝を合わせ、ハンドルにキャップをゆっくり差し込んでください。

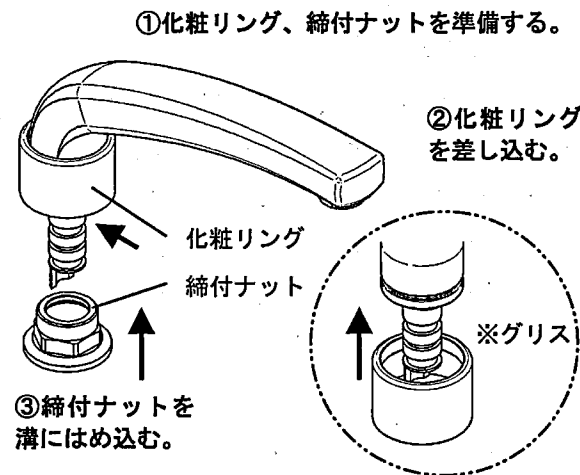
「注意」※長い爪を後ろの溝に、短い爪を前の溝に差し込んでください。



## 取り付け手順

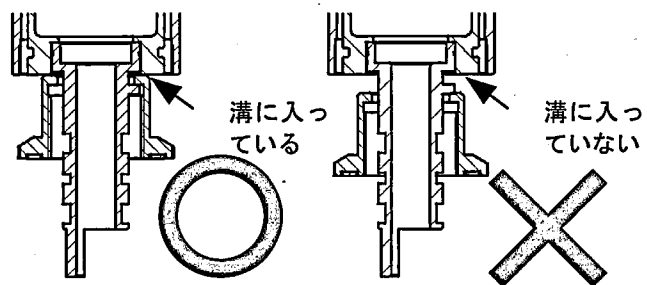
### 7 吐水口の準備

- ①台座セットの箱より、化粧リングと締付ナットを取り外してください。
- ②吐水口胴体に化粧リングを手で差し込んでください。  
「注意」※吐水口のOリングにグリス等を塗りますと差し込みやすくなります。
- ③吐水口根元に締付ナットがはまるよう、一度、差し込んだあと横にずらして溝にはめ込んでください。



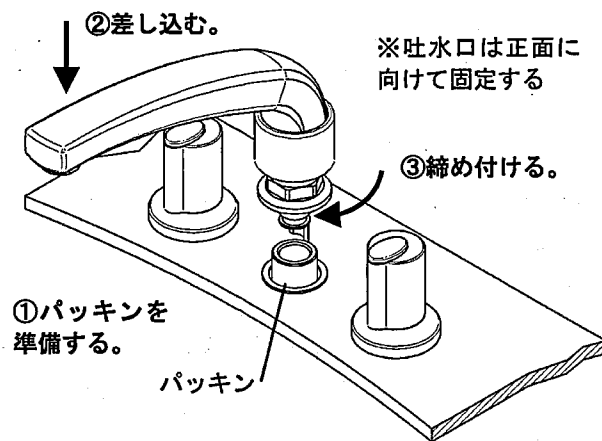
### 8 締付ナットの確認

- 吐水口が抜ける場合は、吐水口根元の溝に締付ナットがはまっていないためです。  
締付ナットを吐水口根元の溝にきちんとはめ込んでください。



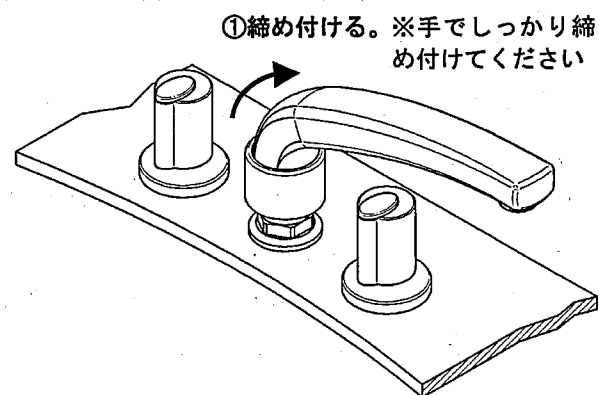
### 9 吐水口の固定

- ①台座セットの箱より、パッキンを取り外してください。
- ②本体中央に差し込み、吐水口が正面に向くよう、本体中央の穴に差し込んでください。
- ③締付ナットを工具（3.6mmスパナ）で締め付けて、吐水口を固定してください。  
「注意」※吐水口、化粧リングにキズがつかないように締め付けてください。



### 10 化粧リングの固定

- ①締付ナットのネジ部に、フランジを手で締め付けてください。



## 取り付け後の点検と清掃

### 通水確認

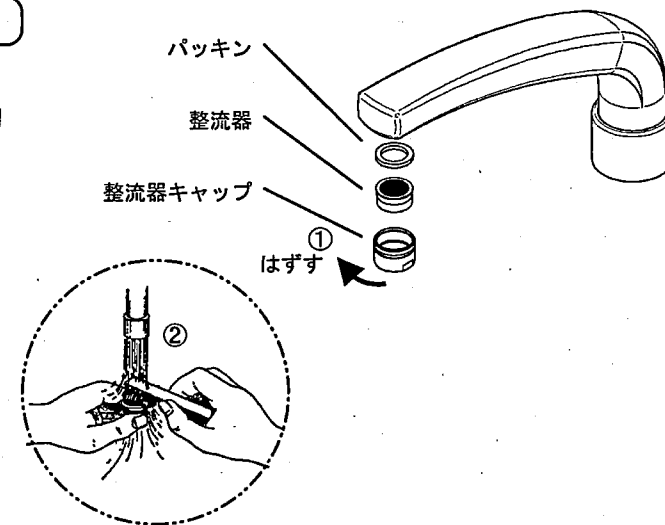
通水して、各接続部に水漏れがないことを確認してください。

### ストレーナ清掃のお願い

#### 吐水口の整流器

吐水口の泡沫器にゴミが詰まると、吐出量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、定期的に清掃してください。

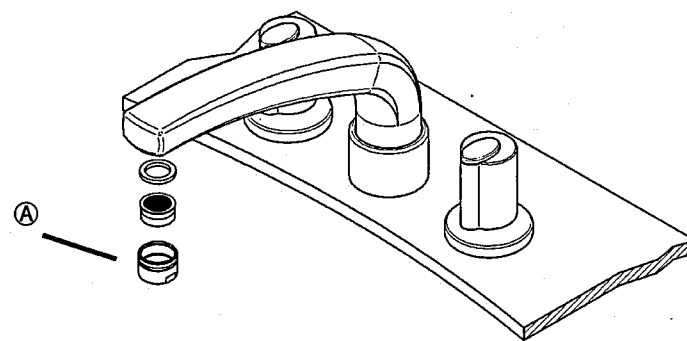
- ①整流器キャップを取り外します。
  - ②整流器をブラシで、ゴミ・水アカ等を洗い流します。  
清掃後は上記の逆の順に組み立ててください。
- ※パッキンは紛失しないようにしてください。



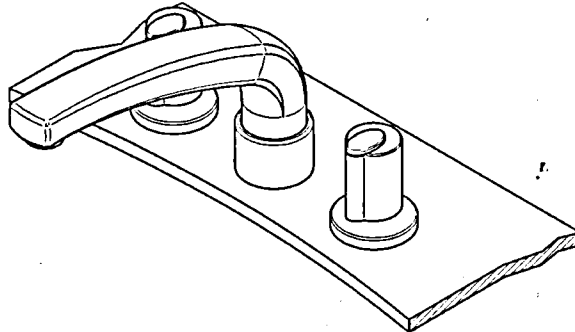
### 故障かなと思ったら...

次のような現象は故障ではありません。表に従ってもう一度お確かめください。

現象	処置	点検箇所
●吐水量が少ない	ストレーナを清掃する（取扱説明書のストレーナの清掃方法 参照）	Ⓐ



□ ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。  
この取扱説明書と施工説明書は必ず保管してください。



**安全上のご注意**

- ここに示した **△注意** は、状況によって重大な結果（傷害・損害）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。



この絵表示は、「接触禁止」の内容です。



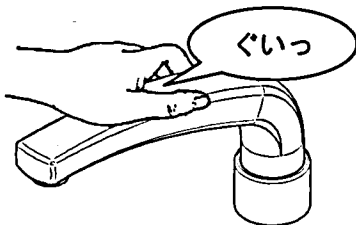
この絵表示は、「分解禁止」の内容です。

**△注意**



禁止

器具に乗ったり、よりかかったりして無理な力を加えないでください。

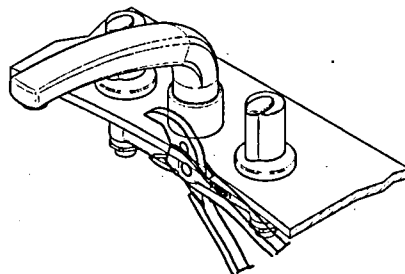


器具が破損し、けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



分解禁止

分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。

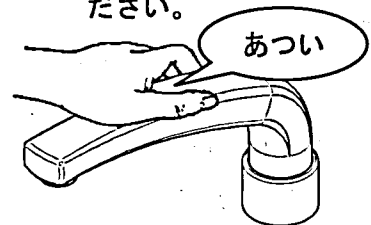


器具が破損し、やけど、けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



接触禁止

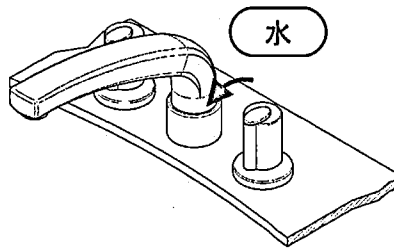
高温の湯をお使いのときには吐水口は高温になっています。直接肌を触れないでください。



やけどするおそれがあります。

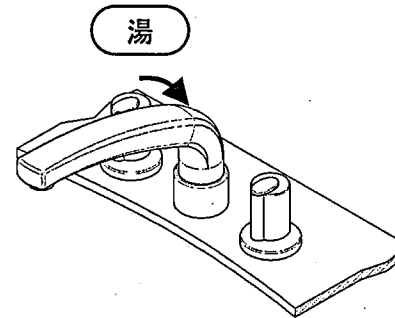
## 注意

！ お湯をお使いになるときは、必ずハンドルを水側から開栓してください。



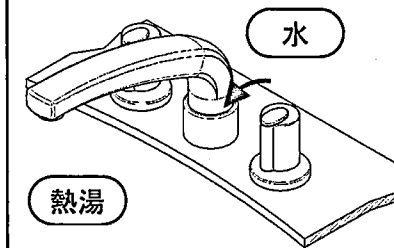
湯側から開栓すると高温の湯が出てやけどするおそれがあります。

！ お湯を止めるときは、必ず湯側ハンドルを先に閉めてください。



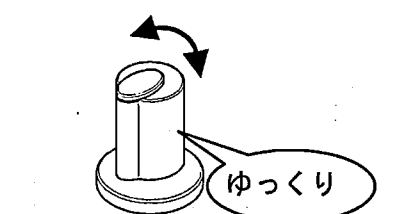
次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出て、やけどするおそれがあります。

！ 高温の湯をお使いの後、器具内に高温の湯が残らないように、しばらく水を流してください。



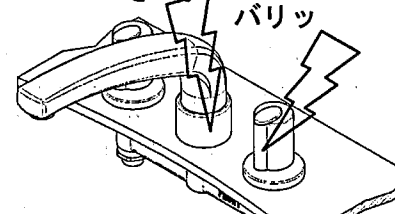
次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出て、やけどするおそれがあります。

！ ハンドル操作の急停止は、配管からの漏水を起すことがありますので、ゆっくり操作してください。



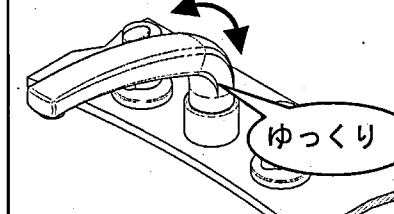
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

！ 凍結が予想される際は、水抜き方法に従って配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。



凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

！ 首振り操作を乱暴に扱おうと故障や事故を起すことがありますので、ゆっくり操作してください。



故障・事故で家財などを破損し財産損害発生のおそれがあります。

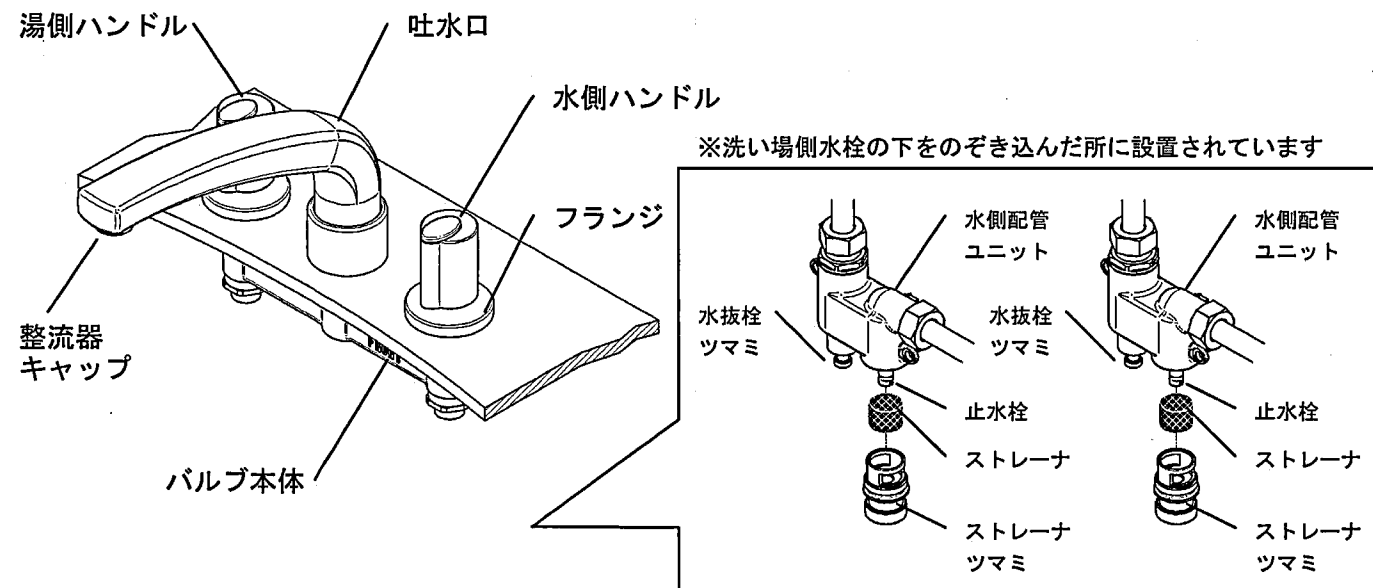
## ご使用前に

### 給湯機の使用上のご注意

- ハンドルは、全開で使用してください。  
給湯機が着火しない場合があります。
- 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- 給湯機の給湯温度は、器具から吐出する温度より10℃以上高くしてください。

## ご使用前に

### 名称

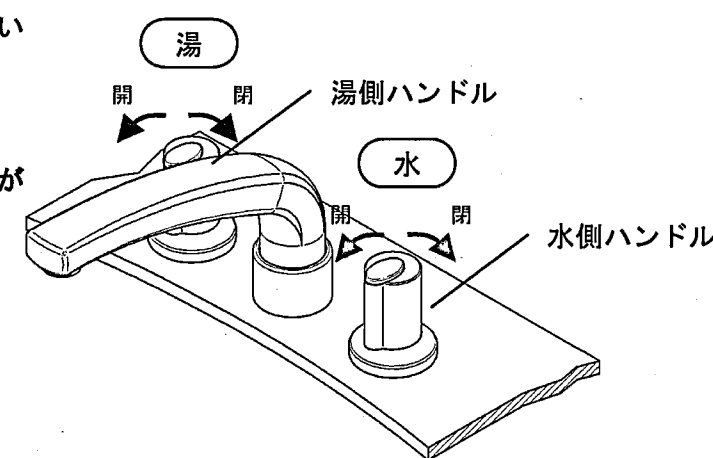


※洗い場水栓の下をのぞき込んだ所に設置されています

## 使用方法

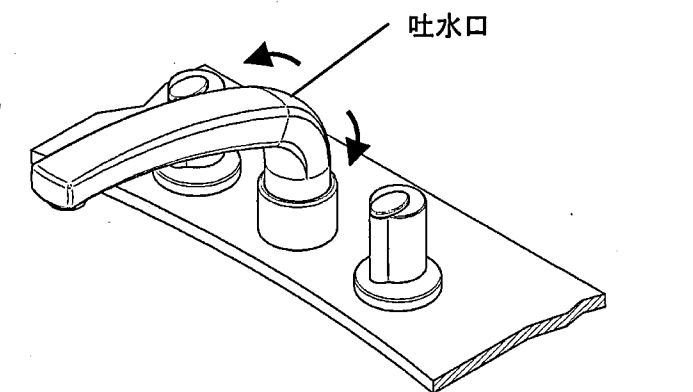
### ハンドル（開閉・温度調整）

水側ハンドルを開き、そのあと湯側ハンドルを開いて、好みの温度に合わせます。  
高温を使用後は、しばらく水を流してください。  
「注意」ハンドルは、ゆっくり操作してください。急な操作は衝撃音（ウォーターハンマー）が発生することがあります。



### 吐水口（首振り）

吐水口は、左右に回転します。  
高温を使用後は、しばらく水を流してください。  
「注意」吐水口は、ゆっくり操作してください。急な操作は故障が発生することがあります。



## 日常の保守・点検・お手入れ

### ストレーナの清掃方法

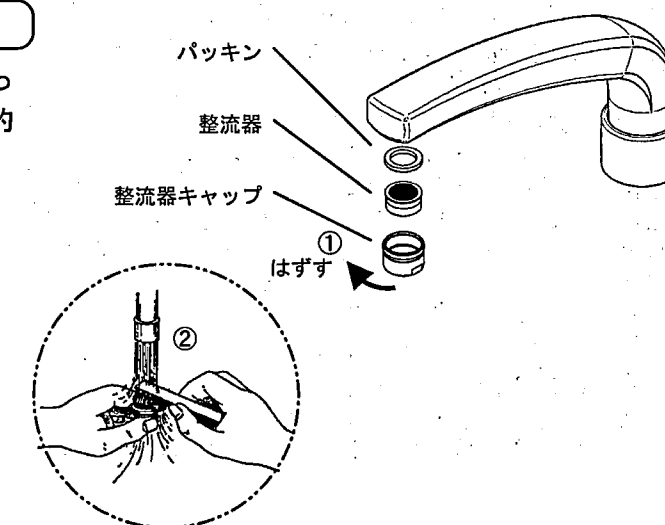
#### 吐水口の整流器

吐水口の泡沫器にゴミが詰まると、吐出量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、定期的な清掃してください。

- ①整流器キャップを取り外します。
- ②整流器をブラシで、ゴミ・水アカ等を洗い流します。

清掃後は上記の逆の順に組み立ててください。

※パッキンは紛失しないようにしてください。



### お手入れのしかた

#### 軽い汚れの場合

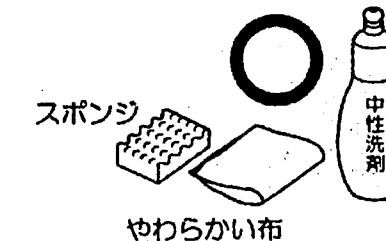
汚れは柔らかい布やスポンジで水洗いしてから、かわいた布でふき取ります。

#### ひどい汚れの場合

中性洗剤をぬるま湯でうすめて、やわらかい布で汚れを拭き取ってから乾いた布でから拭きします。

#### 使ってはいけないもの

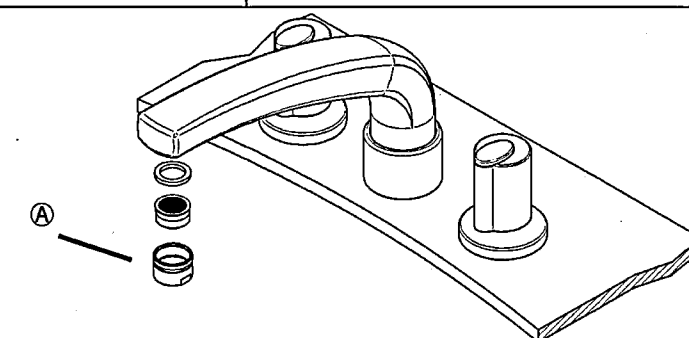
製品には樹脂部品が多く使用されているため、シンナー・アセトン・ベンジン・カビトリ剤・酸性・アルカリ性系・塩素系洗剤等は使わないでください。また、金たわし・みがき粉等は外観にキズが入るおそれがありますので、使わないでください。



### 故障かなと思ったら・・・

次のような現象は故障ではありません。表に従ってもう一度お確かめください。

現象	処置	点検箇所
●吐水量が少ない	ストレーナを清掃する（取扱説明書のストレーナの清掃方法 参照）	①



# 日常の保守・点検・お手入れ

## 水抜き方法

凍結が予想される際は、下記の手順で水抜きを行なってください。

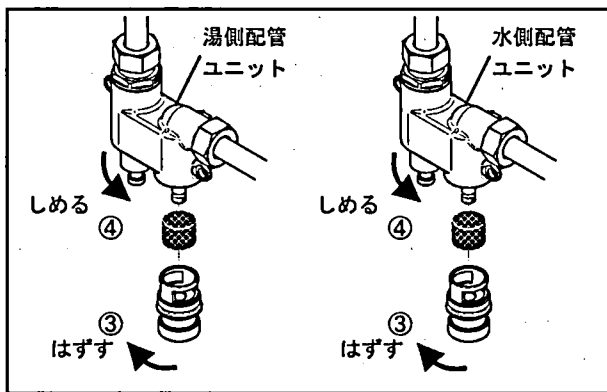
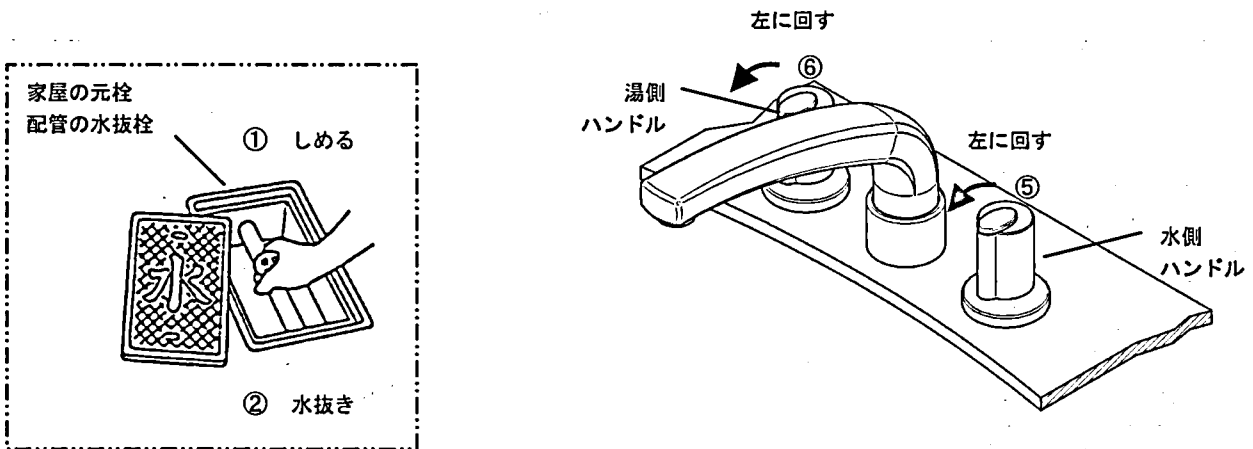
「注意」湯側配管ユニットには、熱湯が溜まっている場合がありますので、操作の際は、やけどをしないように注意してください。

- ①家屋の元栓を閉めます。
  - ②家屋側の配管に水抜き栓がある場合は、水抜き作業を行なってください。
  - ③湯側・水側のストレーナツマミ（二個）を取り外します。
  - ④湯側・水側の水抜き栓ツマミ（二個）を締め込みます。
  - ⑤水側ハンドルを左に回して、水側の水を抜きます。
  - ⑥湯側ハンドルを左に回して、湯側の湯を抜きます。
- 再通水する時は、水抜き栓ツマミ、ストレーナツマミを元通りにしてからお使いください。  
その後、ハンドルを止水にして、配管に水抜き栓を戻し、家屋の元栓を開けます。

### 再通水の時に水が出ない場合

吐水状態でそのまましばらくお待ちください。

これは、水栓内に残った水が凍りついて起こる現象で、異常ではありません。



※洗い場側水栓の下をのぞき込んだ所に設置されています